



「アトリエに於ける原田先生」(『原田先生記念帖』より)

目次

次回展示のお知らせ	特別展「鷗外と画家原田直次郎～文学と美術の交響～」 <small>シンフォニック</small>
名誉館長談	「鷗外とルードヴィヒ二世」加賀乙彦 (文京区立森鷗外記念館名誉館長)
展示報告	コレクション企画「鷗外と詩歌」／ミニ企画
活動報告	2013年6月～8月
ショップ・カフェ便り	
これからの催しもの	2013年9月～12月
開館カレンダー	2013年10月～2014年3月
コラム	From 観潮楼主 No.4



原田直次郎「男性像」油彩 個人蔵



文京区立森鷗外記念館特別展

# 鷗外と画家 原田直次郎

文学と美術の交響

文豪森鷗外は、小説家、戯曲家、評論家、翻訳家、陸軍軍医など多方面で活躍しました。その中には、美術に関わる一面もありました。

明治17（1884）年から明治21（1888）年、鷗外は陸軍衛生制度調査と軍師衛生学研究のため、ドイツに留学します。ドイツでは、ライプチヒ、ドレスデン、ミュンヘン、ベルリンに滞在し学びました。各地では、美術や音楽、演劇などの西洋芸術に出会い、これらが、鷗外の帰国後の幅広い活躍の礎となりました。

ドイツでは、人との出会いもありました。特に、ミュンヘンでの画家原田直次郎との

出会いは、鷗外が美術に興味をもつきつかけとなりました。原田との親密な交流は、お互いの青春を彩る大切なものとなりました。帰国後の鷗外の文業に協力して原田が描いた数多くの挿絵、小説家鷗外のデビュー作となったドイツ三部作のうち、ミュンヘンの風景と若き芸術家を生き生きと描いた『うたかたの記』は、鷗外の原田に対する思いの深さを示しています。そして、原田の代表作である油彩画の大作『騎龍観音』に対する批判に反論して鷗外が執筆した『外山正一氏の画論を駁す』は、医学士鷗外を美術評論家として印象付けるものとなりました。原田が亡くなったとき、鷗外は

遠く九州の小倉の地に赴任中でしたが、その死を悼む文章を新聞に寄せています。それは、鷗外の青春時代、血気盛んな前半期の活躍の終焉とも重なります。

明治42（1909）年に開催された原田没後10年記念の遺作展では、鷗外は発起人として奔走しました。翌年に発行された、この遺作展の出品作品を収録した『原田先生記念帖』は、鷗外と原田の友情の結晶ともいえます。

- 1 「東京美術学校西洋画科をめぐる原田直次郎と森鷗外の立場」  
日時 10月20日（日） 14時～15時半  
講師 新聞公子氏  
（美術史家・東京藝術大学名誉教授）  
申込期間 9月13日～10月5日
- 2 「森鷗外・原田直次郎のミュンヘン時代と『うたかたの記』」  
日時 11月23日（土） 14時～15時半  
講師 大塚美保氏（聖心女子大学教授）  
申込期間 10月15日～11月5日

## 関連事業のお知らせ

特別展期間中に関連講演会を予定しております。事前申込制、定員50名です。

### 展示関連講演会

「東京美術学校西洋画科をめぐる原田直次郎と森鷗外の立場」  
日時 10月20日（日） 14時～15時半  
講師 新聞公子氏  
（美術史家・東京藝術大学名誉教授）  
申込期間 9月13日～10月5日

### 2

「森鷗外・原田直次郎のミュンヘン時代と『うたかたの記』」  
日時 11月23日（土） 14時～15時半  
講師 大塚美保氏（聖心女子大学教授）  
申込期間 10月15日～11月5日

申込方法  
講演ごとに指定の申込期間内にお申込ください。往復はがきの往信に、「〇月〇日講演会」・氏名（ふりがな）・住所・電話番号を、返信用には、氏名・住所を明記の上、左記あて先までご応募ください。  
〒113-0022  
東京都文京区千駄木1-23-4  
文京区立森鷗外記念館  
「特別展関連講演会」受付係 宛  
\*申し込みは、一通につき1名様（お一人様1通まで）、応募多数の場合は抽選とさせていただきます。  
\*ご不明な点等ございましたら、文京区立森鷗外記念館にお問い合わせください。

## ギャラリートーク

当館学芸員が展示解説を行います。  
9/25、10/9、10/23、11/13  
（いずれも水曜日）  
各回14時（30分程度）  
申込不要。展示観覧券が必要です。

期 2013年9月13日（金）～11月24日（日）  
会 展示室1、2  
場 10月22日（火）  
会期中の休館日  
特別展観覧料 一般500円（20名以上の団体：400円）  
中学生以下無料  
障がい者手帳ご提示の方と同伴者1名まで無料  
\*開館1周年を記念して11月1日は観覧料を無料といたします



『新著百種』第12号表紙 館蔵



原田直次郎〈神父〉油彩 SBC信越放送株式会社蔵



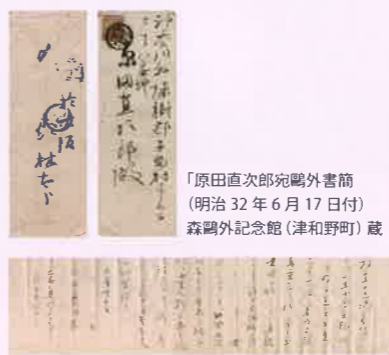
『文づかひ』挿絵（『新著百種』第12号） 館蔵



ミュンヘン時代の直次郎（中央）



「めざまし草」表紙 巻之1 館蔵



「原田直次郎宛鷗外書簡（明治32年6月17日付） 森鷗外記念館（津和野町）蔵

## 名誉館長談

鷗外とルードヴィヒ二世

かが おどろこ 加賀 乙彦



加賀乙彦 文京区立森鷗外記念館名誉館長

ミュンヘンには二度行っている。同じ町に行ったのに、まるで。印象が違った。

最初は一九五八年で、鉄道の貧相な駅から見たのは一面の廃墟であった。そのなかに赤い色の速成の教会だけが、安っぽい様子で建っていた。町中を歩くと、瓦礫となつた家が並び、到底都会とは思えなかつた。戦争の惨禍はドイツでは戦後十三年ぐらいいは復興できないほど、徹底的な破壊であった。

二度目に行ったのは、一九八五年で、二十七年後であった。ベルリンから飛行機で空港に行ったのだ。前に見た記憶が嘘ではないかと思われるほど、立派に整った街になっていた。古い市庁舎が、古びた伝統的な建築になっていて、歴史的な大都在再現されているのは、いかなる魔法を使ったのかと驚かされた。ドイツでは復興というのは、古く見える街を再現することであつたらしい。宮殿も教会も、歴史を刻む由緒ある建造物になっていた。

ワグナーを崇拝している、バヴァリア王ルードヴィヒ二世の建てたロマンチックで華麗な城を、三つほど見たあと、私は王

が自殺した湖の城を訪ねた。かつてのステルンベルク城は今もなく、湖畔の観光客目当てのホテルやレストランになっていた。ステルンベルク湖は、今はウルム湖に改名されていた。王の入水を止めようとして、侍医のグッデンは水に入つて引きもどそうとするが、王の力は強く逆に水中に引きつりこまれてしまう。この場面を鷗外は「うたかたの記」で見事に描いている。

「岸辺の砂は、やうやう粘土まじりの泥となりたるに、王の足は深く陥りて、あがき自由ならず。その際に随ひたりし翁は、これも傘投棄てて追いつがり、老いても力や衰へざりけむ。水を蹴つて二足三足、王の領首むすど握りて引戻さんとす。こなたは引かれじとするほどに、外套は上衣とともに翁が手に残りぬ。翁はこれをかきやり棄てて、猶も王を引寄せむとするに、王はふりかへりて組付き、彼此たがひに声だに立てず、しばし揉合いたり」

湖畔に幽閉されて死に逃げんとする王と、それを助けようとする臣下の老医師との格闘を、鷗外は同情の念をもって、作品の最後に描いている。鷗外はグッデンという老医師が世界的に著名な精神科医であったことを知っていたであろう。そしてこの事件のあと、王と翁の霊をとむらうために、なんども現場に来て、七言絶句を五句も詠んだのである。

鷗外の眼には、医師グッデンは、王のために自分の命を捨てた忠臣に見え、明治大帝のために異国に留学していた自分の鑑に見えたのだ。世界最新の医学を学ぶ若い留学生の心には武士道の精神が脈々として流れていた。

## 同時開催 秋のイベントのお知らせ

### 「森鷗外記念館で現代アート!! 假象の創造」開催のお知らせ

あらゆる分野で巨人的な業績を残した鷗外は、実は、明治期の日本で最初に、本格的にヨーロッパの「美学」を移入し、そこから芸術批評を組み立てようとした、美の哲学の先駆者でもありました。

当館では、鷗外の美術へのまなざしを現在に結びつける試みとして、美術評論家倉林靖氏監修のもと、鷗外の美学に共鳴する二人の現代美術作家、赤崎みま氏、袴田京太郎氏の作品を、エントランスやカフェ、図書室等の無料ゾーンで展示するイベント「森鷗外記念館で現代アート!! 假象の創造」を10月23日（水）から11月24日（日）まで開催します。また開館1周年を記念して、11月1日（金）は、展示室を無料開放します。11月



赤崎みま 「ふたつの実のある風景」 2013年/カラープリント



袴田京太郎 「ホルトガルの壺一複製」 2012年/アクリル板・陶器の壺・本 撮影：加藤健 写真提供：アイショウミウラアーツ

2日（土）には、コンテンツポラリーダンサーの山田せつ子氏と映像作家金大偉氏のコラボレーションによるパフォーマンス、11月2日（土）～4日（月・祝）には、記念館の外壁を金大偉氏の映像作品が彩る〈空間映像インスタレーション「自然と幻視」〉を開催します。11月3日（日）、4日（月）は開館時間を20時まで延長します。

同時期に展示室では、特別展「鷗外と画家原田直次郎」文学と美術の交響」開催中です。

2つの展示を通して鷗外の美術への視点とその現代的な可能性をみつけていただければ幸いです。



# 展示報告

## 「鷗外と詩歌 時々のおもい」

会期：2013年6月28日（金）  
～9月8日（日）  
会場：展示室2

鷗外は生涯にわたって詩歌を詠み、その時々のおもいを、漢詩、翻訳詩、短歌、俳句などで表現しています。作詩の契機となった5つの出来事——人々との出会い、従軍・出張などを核に、各時代の詩歌を紹介しました。いつ、どこで、誰と出会い、どんなおもいを詩歌に託したのかを、自筆原稿、ハガキ、掲載誌、図書などから展示しました。



鷗外と詩歌 時々のおもい

まずは若き日、東大在学中にたしなんだ漢詩や、留学から帰国後に翻訳発表したゲーテの詩『於母影』から詩作の源流をたどります。

日清戦争従軍中は、遼東半島・金州城で正岡子規と出会います。陣中で子規と俳諧論議をした感動を伝える『徂征日記』や、帰国後の子規との交流、加えて小倉赴任中の俳句や漢詩をご覧いただきました。



日清戦争 戦地からの手紙

続く日露戦争従軍中、家族へ宛てた便りに添えられた歌は「明星」「心の花」に掲載され、詩集『うた日記』として刊行されます。戦地での詠歌の数々から、そこに滲む想いを見つめました。

そして、鷗外をめぐる2つの歌会に注目しました。幹事を務めた「常磐会」の歌稿や、自邸で主催した「観潮楼歌会」での詠歌をまとめた「我百首」掲載誌、詩集『沙羅の木』などを通して、創作への意気込みや、詩歌にまつわる交友を紹介しました。



「我百首」より

晩年、陸軍退官前後の漢詩や、帝国博物館総長兼図書頭に就任して奈良に赴いた際に詠んだ『奈良五十首』を紹介し、その感性を眺めました。展示室壁面には、各時代の代表作や掲載誌の挿絵をあしらい、鷗外の詩歌に浸っていただきました。

観覧された方々からは、「戦線でも歌を詠んでいたことに感動」「観潮楼歌会の様子が伝わってきた」との感想が寄せられました。詩歌と寄り添った鷗外の姿やおもいをご想像いただけたようでした。



ギャラリートーク

同時開催ミニ企画

### 高村光太郎生誕130年記念

#### 駒込千駄木林町の詩人

#### 高村光太郎と鷗外

高村光太郎（彫刻家・詩人）の暮らした駒込千駄木林町は、観潮楼のある駒込千駄木町の隣町です。



駒込千駄木林町の詩人高村光太郎と鷗外

光太郎の愛読した鷗外の書、短歌掲載誌、光太郎筆鷗外宛ハガキ、光太郎が手掛けた文人戯画（「スバル」裏絵）、詩集、光太郎の肖像写真などを通して、鷗外と光太郎の接点を軸に、光太郎の生涯と詩歌・芸術活動を紹介しました。

### 展示関連講演会

#### コレクシオン企画関連講演会

#### 森鷗外と佐佐木信綱

歌人・佐佐木信綱を通しての、鷗外の人となりや観潮楼歌会の様子についてお話しいただきました。鷗外と家族ぐるみで親交のあった信綱は、明治40（1907）年に開始する観潮楼歌会にも度々参加しています。鷗外が観潮楼歌会を始めたのは、不仲だった明星派とアララギ派を接近させるためであったというのが通説ですが、この通説に対し懐疑的な視点から話が進みます。

明治40（1907）年前後は、短歌界でも自然主義が台頭し、今後の短歌について盛んに議論がなされる時代でした。幸綱氏は、反自然主義であった鷗外はこの頃、本格的に歌に取り組もうと思っていたのではないかと予想します。開始当初に比べると、明治42（1909）年頃には北原白秋や吉井勇など革新派の若い歌人たちが観潮楼歌会に参加しています。

短歌変革の時代に、鷗外ならではの関わり方で歌に取り組んでいた姿が感じられます。参加者からは、「短歌の歴史の中での観潮楼歌会という視点が面白かった」などのご感想をいただきました。



日時 2013年8月4日（日）14時～15時半  
講師 佐佐木幸綱氏（歌人・早稲田大学名誉教授）

# 活動報告

2013年6月～8月

## 基本講座

### 解説ボランティア1期生誕生！

今年の6月から8月まで合計6回の鷗外講座を全て受講し、解説研修を積んだ15名が満を持してこの9月から解説ボランティアとして活動を開始しました。

解説ボランティアの主な活動は、土日祝日の13時と15時の2回、記念館に関する30分程度の解説を行うほか、12時10分から17時50分まで展示室に在駐し、お客様の要望に応じて解説や当館をより楽しんでいただくためのお手伝いをする予定です。

また、平日には、団体見学の予約に合わせて解説をおこないます。森鷗外記念館の新たな戦力、解説ボランティアの活躍にご期待ください。



研修中の解説ボランティア1期生

### 中学生、記念館の仕事を体験

文京区立第八中学校の2年生職場体験受入れ

学校の夏休みが始まってすぐ、とても暑い日の7月22日、24日の2日間、中学生が、私たち記念館のスタッフと一緒に仕事の体験をしました。文京区立第八中学校2年生の男子生徒1名と女子生徒1名が、ご来館のお客様へのチケットの販売、ショップでのグッズの販売、お客様の案内、展示室で大切な資料を見守る監視の仕事を体験しました。



館内見学のあとお客様に案内できるように自分用のメモをつくりました

館内にはお客様から尋ねられたら案内しなければいけない場所はたくさんあります。2名は、まず何がどこにあるか覚えて、あいさつの仕方、チケットの手渡し方など



記念館スタッフをお客様に見立てて練習しました

### 観覧された方々からは、「戦線でも歌を詠んでいたことに感動」

「観潮楼歌会の様子が伝わってきた」との感想が寄せられました。詩歌と寄り添った鷗外の姿やおもいをご想像いただけたようでした。

観覧された方々からは、「戦線でも歌を詠んでいたことに感動」「観潮楼歌会の様子が伝わってきた」との感想が寄せられました。詩歌と寄り添った鷗外の姿やおもいをご想像いただけたようでした。

## カフェ便り

モリキネ・カフェでは、ご好評につき、文の京ゆかりの文人路菓を継続して取り扱っています。



鷗外の顔の焼印を押した銅鑼の音（どら焼き）や、観潮楼庭園の大銀杏にちなんだいちょうサブレなど、どれも区内の菓子店による創作菓子で、お土産にもおすすめです。営業時間 11時～17時半 ラストオーダー 16時半

## ショップ便り

ショップに新たに入荷したのが、当館オリジナルのしおりとクリアファイルです。しおりには、4人の画家による鷗外の似顔絵とともに、著作から抜粋された鷗外の言葉が記載されています。



普段使いにぜひ

クリアファイルは、当館のロゴマークをクリアファイルにあしらったポップなデザインです。どちらも実用性のあるグッズですので、ぜひお求めのうえ、ご使用ください。



実施事業

2013年6月～8月

2013年6月

30日	14時～16時 文の京ワークショップ 俳句講座1 初級編 俳句に親しむ 佐藤文香
-----	--

2013年7月

6日	11時～12時半 海外講座4 森岡外の生涯3 観潮後の日々 倉本幸弘
9日	終日 記念行事 海外忘・観望者サレテス 倉本幸弘
15日	17時半～19時半 新編俳句講座 俳句講座2 応用編 句会@モリキネカフェ 佐藤文香
20日	11時～12時半 海外講座5 森岡外の生涯4 晩年 倉本幸弘
21日	14時～15時半 文の京ワークショップ 飛び出す手紙! 野内隆

2013年8月

3日	11時～12時半 海外講座6 デイスカッション 倉本幸弘
4日	14時～15時半 豊洲美術館 「森岡外と佐佐木信綱」 佐佐木幸綱
26日	13時半～15時 親子プログラム 漢字で遊ぼう!! 野内隆
26日	18時半～20時 真つ暗闇の朗読会 文の京ワークショップ 野内隆 猪狩友子

俳句講座

若手俳人佐藤文香氏を講師に迎え、俳句講座1、2を、6月30日(日)と7月15日(月)に開催しました。

文の京ワークショップ

俳句講座1 (初級編)

6月30日の初級編では、佐藤氏自作の俳句心理テストシートを使ってゲーム感覚で俳句を作ったり、海外や子規、また現代の俳人が作った句を自作として発表していく「なりきり句会」を行ったりと、リラックしたムードで俳句をお楽しみいただきました。



日時 2013年6月30日(日) 14時～16時  
講師 佐藤文香氏(俳人)

俳句講座

若手俳人佐藤文香氏を講師に迎え、俳句講座1、2を、6月30日(日)と7月15日(月)に開催しました。

文の京ワークショップ

俳句講座2 (応用編)

7月15日の応用編、モリキネ・カフェでお茶とお菓子とともに句会をお楽しみいただきました。



日時 2013年7月15日(月) 17時半～19時半  
講師 佐藤文香氏(俳人)

実現しました。

倉本氏はまず、この対談のきっかけとなった、雑誌「鷗外91号」掲載の小堀氏の論考「祖父森林太郎」を紹介。論考を読んだ折の感動を率直に話されました。その論考は大きなスケールを持ち、同時に鷗外に対する意識的な距離が保たれているとのことでした。話題は、小堀氏の幼少期の想い出、医学部進学、留学体験、近年携わっている地域医療のことなどへと展開していきました。対話はいつしか鷗外の生涯と小堀氏の人生を引き寄せ、会場全体が「鷗外」と対面しているような空間となりました。

終盤に向い、鷗外が「カズイシチカ」で父親を回想したように、小堀氏もまた自身の論考で、父親小堀四郎(画家)を論じてみようとしたのではないかと議論は深まってきました。

両氏が「鷗外」を、また文学や芸術について真摯に語り合うとする対談でした。



日時 2013年7月20日(土) 14時～16時  
講師 右・小堀謙一郎氏(国立国際医療センター名誉院長)  
左・倉本幸弘氏(森岡外記念会事務局長)

文の京ワークショップ

飛び出す手紙!

持参した写真を使って夏をテーマに飛び出す絵手紙を作りました。談笑しつつ始まった講座も、いつしか口数も減り皆さん作業に没頭していた様子。子どもから大人まで思い思いの暑中見舞いが出来上がりました。



日時 2013年7月21日(日) 14時～15時半  
講師 野内隆氏(グラフィックデザイナー)

親子プログラム

漢字で遊ぼう!

グラフィックデザイナーの野内隆氏の指導のもと、各自が持ち寄った、ネジや歯間ブラシ、洗濯ばさみなどの身の回りにある品々で思い思いの漢字一字を形に組み立て、その形を型染めの要領で手ぬぐいに写し取って世界で一つだけの手ぬぐいを作っていました。

色とりどりでとてもきれいなオリジナル手ぬぐいが完成し、子どもも大人も大喜び!



日時 2013年8月26日(月) 13時半～15時  
講師 野内隆氏(グラフィックデザイナー)

朗読会

朗読会「田楽豆腐」「舞姫」

朗読家自身が選んだ2作品『田楽豆腐』『舞姫』の朗読です。

前半は『田楽豆腐』、口語体の日常物語です。紺地に草花模様の衣装で登場した講師の軽快な声が響き、そこに世界が広がります。自邸の庭のさまざまな草花、植物園の光景、どれもが鮮やかに浮かび上がりました。後半は『舞姫』、雅文体の悲恋物語です。冒頭の一節にある「石炭」を連想させる黒衣で再登場、重厚な声音とともに主人公の苦悩を感じさせ、寒々しい情景や冬景色が迫ってきました。

来場者からは、「おごそかな空気」、「厳然とした朗読」、「現代文「田楽豆腐」の快活さ、文語文「舞姫」の深み。使い分けが見事」、「とても快く作品の中へ引き込まれました」、「朗読力でよく理解出来、感動」、「鷗外の世界を堪能」といった声が寄せられました。



日時 2013年8月3日(土) 14時半～16時  
講師 内木明子氏(朗読家) 相模女子大学非常勤講師

文の京ワークショップ

真つ暗闇の朗読会



日時 2013年8月26日(月) 18時半～20時  
講師 野内隆氏、猪狩友子氏(イベントMC)

閉館後の導入展示室を真つ暗にしての朗読会。作品に合わせた効果音と香の漂うなか、猪狩友子氏による『林』と『老人』の朗読を楽しみました。

これからの催しもの

2013年10月～12月 (講師敬称略)

- 10月～12月の催しもののご案内です。印の催しは事前申込制です。申込期間内または締切日までにお申し込み下さい。
- ◆東京美術学校西洋画科をめぐる  
日時 10月20日(日) 14時～15時半  
講師 本間由美子
- ◆「森岡外と佐藤文香」の時代と「うたかたの記」  
日時 11月23日(土) 14時～15時半  
講師 大塚美保(聖心女子大学教授)  
展示関連講演会の詳細は、2ページの展示関連事業のお知らせをご覧ください。
- ◆文の京ワークショップ  
◆「トリルイベントでブックカバーをつくらう」  
日時 10月16日(水) 14時～16時半  
講師 本間由美子
- ◆原田直次郎と森岡外の立場  
日時 10月20日(日) 14時～15時半  
講師 新聞公子(美術史家・東京藝術大学名誉教授)
- ◆「森岡外・原田直次郎のミュンヘン時代と「うたかたの記」」  
日時 11月23日(土) 14時～15時半  
講師 大塚美保(聖心女子大学教授)  
展示関連講演会の詳細は、2ページの展示関連事業のお知らせをご覧ください。
- ◆「年賀状を作ろう」  
日時 12月14日(土) 13時半～15時  
講師 落合崇(グラフィックデザイナー)
- ◆「朗読鑑賞&ワークショップ」  
日時 12月1日(日) 14時～15時半  
講師 金田瑞奈
- ◆「アイロンビーズでクリスマスオーナメントを作ろう」  
日時 11月30日(土) 13時半～15時  
講師 富山加代子
- ◆「空間映像インスタレーション」自然と幻視  
庭園の植物をテーマにした映像作品を日没とともに記念館外壁に投影。  
日時 11月2日(土)・3日(日)・4日(月) 17時～20時  
会場 文京区立森岡外記念館 外壁  
料金 無料
- ◆「ダンスと音楽と映像によるパフォーマンス」  
日時 11月2日(土) 19時～20時  
ダンス 山田せつ子(コンテンポラリーダンサー)  
映像・音楽 金大偉(映像作家・音楽家)  
会場 文京区立森岡外記念館 地下1階導入展示室  
料金 1500円  
定員 30名(事前申込制)  
申込締切 10月25日(必着)
- ◆「開館1周年記念行事」  
◆「開館1周年を記念して11月1日(金)に観覧料を無料」といたします。
- ◆「森岡外記念館で現代アート!!」  
「假象の創造」カシヨクノソウ  
特別展「鷗外と画家原田直次郎」文学と美術の交響」と連動し、鷗外の美術への関心や仕事を現在に結びつける試みとして、2人の現代美術作家の作品を、カフェやエントランスなどで展覧します。  
ディレクション 倉林靖(美術・音楽評論家)  
出品作家 赤崎みま(写真家)、猪田京太郎(彫刻家)  
会期 2013年10月23日(水)～11月24日(日)  
会場 文京区立森岡外記念館無料ゾーン(エントランスホール、図書室、カフェ等)  
料金 無料
- ◆講演会「鷗外と美学、その現代的な可能性」  
日時 11月16日(土) 14時～15時半  
講師 倉林靖(美術・音楽評論家)  
会場 文京区立森岡外記念館 2階講座室  
料金 無料  
定員 50名(事前申込制)  
申込締切 11月6日(水)



10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
			5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

特別展『鷗外と画家原田直次郎 ～文学と美術の交響～』  
9月13日(金)～11月24日(日)  
コレクション企画『鷗外宛年賀状展(仮)』  
11月29日(金)～1月26日(日)

コレクション企画『鷗外作品紹介1『雁』(仮)』  
1月30日(木)～2月23日(日)  
コレクション企画『こどもの読み物(仮)』  
2月27日(木)～4月20日(日)

● 休館日  
□ 展示室閉室 (ショップ、カフェ、庭園は開放)

From  
観潮楼主  
No.4



《落ちたる楽人》 大正5(1916)年  
油彩・パステル、キャンパス 66.6×121.6cm  
練馬区立美術館にて開催中の『生誕120年 宮芳平—野の花として生くる。』展(9月15日～11月24日)に当館所蔵の油彩『歌』や鷗外書籍などの宮芳平資料を出品中です。こちらもぜひお見逃しなく!  
HP: <http://www.city.nerima.tokyo.jp/manabu/bunka/museum/>

画家 宮芳平 (みやよしへい)  
明治26(1893)～昭和46(1971)  
大正3(1914)年10月、宮芳平は観潮楼に鷗外を訪ねます。鷗外が審査主任を務めた第8回文展に落選した理由を問うためでした。その逸話は『天籠』に著されます。宮は画学生M君として「いかにも無邪気で、其口吻には詞を構へて言ふやうな形迹が少しもなかつた」と描かれ、その画風は「公衆の好みに阿つた迹もなく、又大家の意を迎へた迹もない」と評されました。  
出会いから2年後の大正5(1916)年12月、鷗外は宮から「落ちたる楽人」を購入します。ひとりの楽人が自身の音楽を聴くために舟で海に乗り出しますが、急な嵐に遭い、楽器もろとも海底深く沈んでしまったところを人魚達がもの珍しがっている光景が描かれています。



【交通案内】

- 電車をご利用の場合
    - ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅1番出口徒歩5分
    - ・東京メトロ南北線「本駒込」駅1番出口徒歩10分
    - ・都営三田線「白山」駅A3番出口徒歩15分
  - バスをご利用の場合
    - ・都バス草63番系統「千駄木一丁目」下車徒歩1分
    - ・都バス上58番系統「団子坂下」下車徒歩5分
    - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL:03-3824-5511  
URL:<http://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00(最終入館は17:30)  
休館日 毎月第4火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)、  
及び展示替期間、煙蒸期間等

文京区立  
森鷗外記念館  
Mori Ogai Memorial Museum